

ベトナム

日本留学経験者の待遇に工夫を

ジェトロ海外調査部アジア大洋州課 大久保 文博

ベトナムでは、日本留学から帰国したベトナム人たちが、その経験を武器に日系企業の中核として活躍している。しかし、バラ色の成功談ばかりではない。彼らの給与や待遇をめぐる、企業はもとよりベトナム人同士の間で不協和音が生まれることもある。留学経験者の待遇には細心の注意が必要だ。

ベトナム人留学生像は

「『個』では日本人よりベトナムの方が優れている。しかし、『チーム』になると日本人はベトナム人の『個』を凌駕する。日本人から“和の心”“団結”“仕事への姿勢”を学ぶことは、ベトナム人にとって大きな成長につながる」。あるスピーチでこう語ったのは日本に留学後、母国でIT企業を立ち上げた若手ベトナム人社長だ。自信と誇りに満ちあふれる彼がここで伝えたかったのは、日本の文化や考え方から学ぶことに日本留学の意義があった、ということだろう。近年、彼のように意欲的に日本で学ぼうとするベトナム人たちが増えている。

日本学生支援機構（JASSO）によると、2013年5月1日時点で日本の大学院や大学、短大、高専、専修学校、準備教育課程に通うベトナム人留学生は6,290人（前年比43.8%増）。中国（8万1,884人、同5.1%減）、韓国（1万5,304人、同8.1%減）からの留学生に次ぐ規模を誇る（表）。一方、日本語学校の留学生数は7,509人（前年比4.3倍）。ベトナムからの留学生の総数は1万3,799人（前年比2.3倍）にも達する。12年から1年間、ベトナムからの米国留学生数は1万6,098人（同3.4%増）で、日本への留学生数は米国のそれに劣るものの、伸び率では勝っている。

日本に留学するケースは大きく二つに分類される。ベトナムの大学で日本語学科に所属する学生や日本の大学で英語の講義のみを受けようという学生は語学学校に通うことなく留学する。一方、高校卒業直後に来日する場合やベトナムの大学で日本語学科に所属しない学生などは、日本の語学学校で1~2年ほど勉強してから進学するのが一般的だ。

日本語を武器に就職

ベトナムから日本に留学するという取り組みは明治時代にまでさかのぼる。フランスからの独立を目指していたベトナム人革命家のファン・ボイ・チャウが「東遊（ドンズー）」運動を提唱したことに始まる。ドンズーとは「東に留学する」の意で、東とは大国ロシアと戦った日本を指す。日本への留学の流れは、ドンズー運動が途絶えた後もほそほそと続いていたが、ここ数年大きな潮流となっている。明治時代の政治的な目的とは異なり、最近の留学は経済、科学技術などの他、文化や考え方を学び、日本企業へ就職、あるいは起業を視野に入れた意味合いが強い。

07年に日本語が中学校の正式科目として認められ

表 日本における外国人留学生在籍上位10カ国

(単位：人、%)

	国（地域名）	留学生数					伸び率 (12→13年)
		2009年	10年	11年	12年	13年	
1	中国	79,082	86,173	87,533	86,324	81,884	▲5.1
2	韓国	19,605	20,202	17,640	16,651	15,304	▲8.1
3	ベトナム	3,199	3,597	4,033	4,373	6,290	43.8
4	台湾	5,332	5,297	4,571	4,617	4,719	2.2
5	ネパール	1,628	1,829	2,016	2,451	3,188	30.1
6	インドネシア	1,996	2,190	2,162	2,276	2,410	5.9
7	タイ	2,360	2,429	2,396	2,167	2,383	10.0
8	マレーシア	2,395	2,465	2,417	2,319	2,293	▲1.1
9	米国	2,230	2,348	1,456	2,133	2,083	▲2.3
10	ミャンマー	1,012	1,093	1,118	1,151	1,193	3.6
	合計（その他含む）	132,720	141,774	138,075	137,756	135,519	▲1.6

注：各年とも5月1日時点の留学生数
 出所：日本学生支援機構



クリスマスソングを練習する日本語学科の学生たち

て以降、全国の中学・高校で第1外国語として日本語クラスを開設できるようになった。当時中学生だった生徒たちは、既に高校を卒業。日本への留学ブームは、この世代がけん引する。国際交流基金の調査によると、06年時点の国内における日本語学習者数は2万9,982人。09年に4万4,272人と大幅に増加した後は、安定的に増えている。12年は09年比5.6%増の4万6,762人だった。日本語学習者が多い首都ハノイでは、03年に1校しかなかった日本語学習校が、12年には中高校合わせて31校、生徒数も5,000人を超えているという。

日本語人材を活用するには

日越外交関係樹立から40周年となった13年の対越投資（認可ベース、新規・拡張）は、500件（前年比12.6%増）、58億7,500万ドル（同5.0%増）となり、過去最大の投資件数を記録。14年4月時点で、在ベトナム日本商工会登録企業総数は1,299社にまで増加した。12年後半からの投資では、大型投資の案件は影を潜め、100万ドル未満の投資が大多数を占めている。13年の対越新規投資では、352件中、100万ドル未満が60.2%も占める。この多くが中小企業の投資だ。


日本留学経験者を採用してベトナムに進出した中小企業もある。千葉県でゴム、シリコン製品などの製造販売をするA社は、ベトナム人のN氏を採用したのを機に、13年に進出した。当初、タイかインドネシアへの進出を検討していたという。進出前、同社はベトナムの地場企業に加工生産を委託。この間、同時並行で進出のための事前調査を進めた。N氏に約2年間の実務経験を積ませた後、満を持して進出した。現在、N氏は現地法人の副社長として、工場を切り盛りしている。こうした日本語ができる人材たちが中小企業の海外進出のハードルを大きく下げている。しかし、留

学経験者の活用は必ずしも簡単ではない。

日本留学を経験したベトナム人をどのような待遇で迎えるか、対応に頭を悩ます日系企業は多い。ベトナム南部に生産拠点を構える大手日系企業B社の例を見よう。同社はベトナム人留学生を日本で採用。将来的には母国に赴任させようと考えていた。だが、赴任直前になって給与面で折り合いがつかず、そのベトナム人は退職してしまった。採用時、日本勤務は日本の給与水準だが、赴任時にはベトナムの水準に下げたことを伝えていたという。赴任が近づくにつれ、ベトナム人の心境が徐々に変わっていったようだ。前出のN氏は事情を次のように説明する。「日本であれば月20万円以上の給与がもらえる。だが、母国に戻ると10万円以下になるケースが多い。母国に戻りたいという心境にならなければ、日本で働くことを選択するだろう」。

日本への留学経験者は、ベトナムで就職する際、日本の給与水準を企業に求める傾向が強い。ところがこの要求を受け入れると、留学経験のないベテラン従業員たちとの間で格差が生じることになる。現地人材紹介会社の担当者によると、日本語学科を卒業した日本留学経験のない新卒者の給与は、月額300~350ドル程度、日本語検定1級合格者の場合は500ドル前後だという。一方、日本留学経験者は、1,000ドル以上を希望するのだという。ジェトロ調査^{注1}によると、マネジャークラス^{注2}でさえ、製造業では月額782ドル、非製造業では月額1,073ドルと、日本留学経験者が求める水準とほぼ同等かやや上回る程度なのが実態だ。

ベトナム人は、普段から自分の給与額を口にする。企業が隠し通すのは難しい。そのため給与格差が、従業員間の不平不満に発展し、離職などにつながる可能性も考えられる。彼らにとって100ドルの差は、日本人が考える以上に大きいのだ。

現地人材紹介会社の担当者は「採用する際に人となりや能力をしっかりと見極めるとともに、採用後は現地法人の社長や日本人駐在員の右腕として据え、彼らが特別な存在であることを社内に周知させることが重要」と話す。給与額はベトナム人にとって大きな関心事の一つだ。日本留学経験者の採用は、従業員間の関係なども踏まえて対応を工夫する必要がある。 

注1：ジェトロ「在アジア・オセアニア日系企業実態調査」（2013年度）

注2：課長クラス、勤務経験10年程度